



娘の安全を考え、 保護者会で発言するも……

あの震災と東電の原発事故があっても、地元の福島県会津若松市では除染を行わない方針でした。そんな中、線量を計測している人がいて、当時の数値が地表1cmで0.8 μ Sv/hとか、1mで0.4 μ Sv/hとか（記憶が曖昧ですけど）高い数値だったので、このままではまずいと。会津では今も除染は行っていないし、運動会も外で実施されています。また、学校給食でも地産地消を進めると言われていたので心配になり、2011年4月の保護者会のときに発言しました。『安全かどうか分からない地元の野菜は数値を測って使用してほしい。』

『今まで通りのスケジュールじゃなく、臨機応変に対応してはどうか。』

私の提案は、まったく取り合ってもらえませんでした。何より驚いたのは、600人いた他の保護者が誰一人賛同もなく、冷ややかな目だったこと。とてもショックでした。娘が安全に暮らせるかどうか不安だったので、運動会が行われる前にと、2011年5月11日に祖母と娘だけ先に親戚のいる岩見沢市に避難させました。

多田美雪さん

福島県会津若松市より北海道岩見沢市へ避難した後、札幌へ移住。家電量販店の経理から2015年1月に外資系金融機関へ転職。現在に至る。15歳の娘さんと二人暮らし。



最初は福島に残って 仕事をするつもりでしたが……

震災当時は、福島県で家電量販店に勤めていて、娘のことは祖母に任せて福島で仕事を続けるつもりでいました。でも、当時の上司が、家族と一緒に暮らすことを薦めてくれて、娘たちが避難した1か月後には避難先の岩見沢店へ転勤させていただくことができました。何年か仕事をしている中、自分の中で、このまま定年までの仕事をしていいのかわか、何か行動して人を幸せにできないかと考え始めた頃、福島でお世話になっていた方からヘッドハンティングのお話を頂きました。この出来事をきっかけに、生涯続けていく仕事について真剣に考えるようになり、今の仕事に出会いました。たまたま知人の先輩が働いているということで詳しく話を聴かせて頂き、この仕事だ!とピンときたんです。人生に保険をかけてたら何にもできないと思っているので、転職が決まる前から、家電量販店には辞表を提出しました。退路を断って行動していれば、必ず道は拓けると信じていたからです。お陰様で今の会社に転職することができました。仕事も大好きですし、尊敬できる先輩もいて、色々な人に出会ってお話をしていると、とにかく元気になれます。お客様から、『多田さん。辞めないでね。すべてお任せするからね。』『多田さんにもっと早く会いたかった。でも、会えてよかった。』と言われると、身が引き締まる思いです。お客様に育てていただいて、私は本当に恵まれていると思います。



周りの人たちをどうやって 喜ばせるか、笑顔にするか

動けていない人って考えすぎなのかなって思います。考えると、どうしても悪い方向に考えてしまうから。私も元々心配性で、人見知りなので、考えすぎる前に行動するように心がけて実践しています。震災前から母子家庭だったので、世の中の弱者に理不尽が集中するっていう感覚はなんとなくわかってきたから、自分から行動する大切さを元々感覚として知っていたような気がします。マイナスからゼロに戻すためにエネルギーを費やすのであれば、同じエネルギーをかけて、新たな場所でゼロからプラスに積み上げるためのエネルギーにしたほうがいいと思っています。ADRをしようとしたこともあったけれど、対象にならなかった時点で、訴訟に労力をかけるのはやめよう決めました。今は、周りの人達をどうやって喜ばせるか、笑顔にするか。それを考えて実践し続けています。見返りを求めなければ、必ず自分に還ってくる。それが、ビジネスに限らず、色々なことの真髄だと思います。

震災から今までを振り返って、 いま大切にしていることは……

あれだけの災害を体験して、いつか自分の命が潰れる日が来るってことを自分のこととして分かったからこそ、“今”を大切に行動しています。明日死ぬかもしれないってことを体験したのであれば、今できることをやったほうが絶対いいから。過去よりも今が大事だし、これからの目標を決めて、動いてしまった

ほうがいい。私は不器用なので、とにかく行動しながら考えるようにしています。避難を選択したこと自体が正しいかどうかは、10年経っても分からないと思います。正しいか正しくないかを求めていると苦しくなるから、もう、ここで幸せに暮らせばいいんだと心に決めました。自分がハッピーかどうか、ってものすごく大切な感覚ですから。

目標や目的がはっきりしているかどうかで、日々の暮らしや仕事への取り組み方も、ものすごく変わってくることも実感しています。だから、ひとりでも多くの人が、自分の人生で、目的や目標をもって幸せになることを願っています。避難する行動力がある人たちなら、どうにだって変われるし、やり直せるし。

楽(らく)と、幸せはイコールではないから、幸せであり続けるために、とにかく考えて、とにかく行動してきました。震災での体験って、人それぞれ違うし、本当に大変だったと思います。たくさんつらいことを経験したこともわかるけど、きっと乗り越えられるし、助けてって言えば、助けてくれる人が現れるから。

行動できないで迷っている人には、『とにかく、うごけ!』って、伝えたい。

動けば、絶対に何か得るものがあるから、いつも自分にも言い聞かせている大切な言葉です。

自分を信じてあげられるのって、最後は自分だけじゃないですか。だから信じています。

でも、過信はしないように戒めています。どんなに悩んでも、迷っても、私には私がついているし、見守ってくれている娘の存在が心の支えです。今年3月に中学校を卒業したときにもらった手紙は私にとってのお守りのように大切なもの。いつも手帳に挟んで持ち歩いていて、つらいことがあったら、読んでパワーをもらっています。私の仕事をする姿を見て、娘もいろいろと感じながら成長してくれているのが本当にありがたいですね。

